

【施策評価調査】

施策名	3-1-3 緑地保全活動の推進	97	政策「3-1 自然環境の保全と創造」を実現するためには、 ①高根沢町が守るべき自然環境とは何か？、またどのようにして高根沢町の自然環境を創造していくべきか？というビジョンを明確にし、ルール化 ②①で明確にしたビジョンを実現できる人材の育成 ③①で明確にしたビジョンを確実に運用できる仕組み作り...という3点からのアプローチが必要です。この施策は、③の観点から政策を実現させるために設定しました。
担当部課	住民生活部 環境課	担当 リーダー 環境担当 竹澤 伸一	
環境変化	緑地保全契約は締結していませんが、元気な森づくり県民税事業による「将来まで守り育てる里山林整備事業」により、宝積寺鷲の谷地区の山林を地権者の協力のもとに不要木の除去、下草狩り、歩道整備を行っています。この事業は将来的に11haを整備する予定です。		緑地等の保全の重要性に関する広報活動を充実させるとともに、主に地域固有の田園景観の保持に大きな役割を果たす屋敷林や、生物多様性の維持に大きな役割を果たす東部台地やサギノヤ地区の森林を対象に、土地所有者の協力を得つつ緑地保全契約を締結していきます。さらに土地所有者の協力と住民の支援を得ながら、一定規模以上の緑地保全契約地を身近な自然とのふれあいの場として整備し、活用する手法を検討します。また、水田地帯の水辺環境の適切な保全や復元手法、休耕田の湿地ビオトープ*としての活用などの創造手法を検討します。（※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋）

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①: 緑地保全契約面積 (ha)	平成16年度	計画			1.9ha	2.7ha	2.0ha
	0 ha	実績	→ 0 ha	→ 0ha	→ 1.9ha	↓ 2.0ha	
指標②:		計画					
		実績					
指標③:		計画					
		実績					
◆◆ 指標に関する特記事項 ◆◆	実施計画: 20年度1.9ha、21年度2.7ha、22年度1.7ha、23年度2.0ha、24年度2.8ha						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	0	0	0	2,110,000	
	決算	0	0	0	2,103,384	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
① 将来まで守り育てる里山林整備事業費	当初 2,110,000	整備面積	A	里山保全を目的とした産業課の事業です。毎年整備することで緑地保全につながります。環境課も連携して森林保全活動を推進しました。			
※再掲 (産業課の事務事業)	決算 2,103,384	2ha / 2ha		今後の方向性 (自己評価)	継続	今後の方向性 (総合評価)	継続
②	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	
③	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	
④	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	

■施策事後評価 21年度の検証

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	産業課の実施する元気な森づくり県民税事業による里山整備を、連携して行うことで緑地保全活動の推進につながりました。また、環境学習の場としての活用もできました。	平地林や里山は、自然環境の保全、二酸化炭素の吸収源など生活環境の保全にも優れています。また身近な自然散策、憩いの場でもあり、植物や昆虫や野鳥など生き物が豊富な場所であり、環境調査や学習の場としても活用できます。緑地保全の推進のため整備をすすめていくとともに、管理も含め活用の方策を探ることが課題です。
総合評価	横断的な施策展開されていると評価する。緑地保全活動を推進することで、どのような成果が得られるのか踏まえた上で、環境課だけでなく、エコハウス、産業課、都市整備課、生涯学習課等の施策や事業と繋がりのある施策展開を期待する。	